

南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

令和7年度第2回

(令和8年2月19日)

令和7年度第2回南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

1. 日 時 令和8年2月19日(木)
開 会 午後2時00分 閉 会 午後3時00分
2. 場 所 南丹市役所 2号庁舎 3階 301会議室
3. 協議事項 別紙次第のとおり
4. 出席委員 村上委員長 芦刈副委員長
河方委員 廣瀬委員 井尻委員
八木委員 坂本委員 橋本委員 坂本委員
5. 事務局 福祉保健部部长 川勝
社会福祉課課長 奥村
社会福祉課課長補佐 田中
社会福祉課主査 林
つくし園施設長 大平
6. 傍聴人 1名

1. 開会あいさつ 委員長

これから、R7年度の報告とR8年度に向けての事業計画を説明していただく。限られた時間の中で、活発な意見、ご感想をお聞かせ願いたい。

2. 報告

・令和7年度発達支援事業計画・事業経過報告

事務局より資料を基に報告。

・令和7年度児童発達支援計画・事業経過報告

事務局より資料を基に報告。

・事業経過報告について質疑応答

A 委員：子どもが小学生で放課後児童デイに通っている。小さい頃から療育に通っていて、園とも連携してもらえて良かったと思っている。療育の中で、家ではできないことをしてもらって、できるようになって、他の保護者からも、とても助かっているという話を聞いている。

B 委員：加配を担当する短時間や任用職員の保育士向けに研修を依頼した。実際の関わりを目の前で見たあとの研修だったので、とても実りの多い研修となった。センターのスタッフが、常に近くにおいて相談しやすい環境なので、これからも相談していきたいと思う。
のびのび教室（ペアレントトレーニング）の対象者への声かけについて、教えていただきたい。

事務局：のびのび教室は、センターの相談事業を利用してくださっている保護者を対象に、必要性が高いと思われた場合、相談の中で紹介している。園からも紹介したい保護者がおられたら教えていただきたい。

B 委員：ペアレントトレーニングに繋がればいいなと思うことがあるので、できるだけ紹介ができるように、保護者と信頼関係を作っていきたい。

事務局：つくし園家族の会の委員が欠席のため、ご意見を代読する。ほっと会さんのおしゃべり会を開催し、先輩保護者の方のお話を伺うことで、将来を具体的にイメージする機会となり、安心感に繋がった。
地域によっては地域内に放課後等デイサービスがないことについて、負担や不安を感じている声が上がっている。個別の配慮が必要となるケースもあり、学童利用において、家庭の負担が大きくなっている状況があるため、今後の地域の支援体制を考える上で参考にしていきたい。

議長：ありがとうございました。他にご質問、ご意見はありませんか。

⇒質疑なし

3. 議事事項

- ・令和8年度発達支援相談事業計画について
事務局より資料を基に説明。
- ・令和8年度児童発達支援事業計画について
事務局より資料を基に説明。
- ・事業計画についての質疑応答

C 委員：低年齢からの療育について、親子療育をお世話になれば一番いいなと思っている。2歳児ぐらいになると自我が出て、自分の感情の調整ができなくて、その時期に一番保護者がしんどさを抱えられることが多い。子どもへの関わりについて親子療育の中で伝えていただけると、そこから先、アタッチメントの部分でも子どもたちにとってすごくプラスになっていくと思うので、ぜひお世話になりたい。

事務局：早期に利用していただくことで、発達段階や特性に合った関わりが低年齢からできる。2歳児の親子に関しては、通年で親子療育を実施している。保護者同士の横の繋がりもでき、成長を喜び合える機会にもなっていると感じている。3歳児以上では、最初の5回が親子療育となっているが、そこで保護者へのフィードバックや子どもへの関わり方を丁寧に伝えていけるように関わっていきたい。

E 委員：ペアレントトレーニングが南丹市この地元で経験できる機会があるのであれば、今後ずっと続いていくものだと思うのでいいなと思う。他県では、学校の中にOTが入られて、支援が必要な子どもが、OT的な関わりの中で学べる機会があると聞いた。ことばの教室だけではなく、体の使い方等から学べるということも、今後広がっていったらいいなと感じています。

F 委員：子育ての中でも特に保護者との話し合いというのが大切なのかなと感じた。療育の取り組みの大切さ、重要性というの、広く知っていただく機会として、社会福祉協議会として、法人をあげたサポートも必要ではないかと感じさせてもらった。

議長：発達支援相談事業及び児童発達支援相談事業実績報告及び事業計画について、承諾いただければ挙手願います。

⇒全員挙手

承認されましたので、これで議事を終了します。

4. 閉会のあいさつ 副委員長

本日は、皆さまお忙しい中、会議の方に参加いただきましてありがとうございました。

本校のことに関して言うと、10年前は、特別支援級2クラス、所属してる児童は9人しかいなかったが、10年後の今は、特別支援級7クラスに児童が42人、この10年間で4倍

以上の子が特別支援級に入級するようになった。毎年、特別支援が必要な児童が増えていることを実感している。

今は、園や福祉の団体が、丁寧にみていただいているおかげで、1年生のときから特別支援級適の判断ができています。昔はそれがなかなかできてなくて、通常の教室に入ったけれども、不応を起こして不登校になるようなことが起きていた。今は、特別支援級で1年間しっかり力をつけて、2年生から通常級に戻るといふ形にもなったりしている。

いかに力をつけて自信を持たせていくかといふのが大事だと思ふし、このような療育はすごく大事だと思ふている。療育に繋がらなかつた家庭については、もっと社会全体でフォローできたら良い。本日ここに参加されている皆さまが、配慮のいる子どもたちや家庭についてサポートができるように連携を取っていきたい。本日はどうもお疲れ様でした。